記者提供資料

河川環境を改善するため、
ダムから下流に放流する「社会実験」を実施します

銅山川の河川環境改善に向けた取り組みについて

国土交通省と水資源機構で管理する銅山川ダム群（富郷ダム、柳瀬ダム、新宮ダム）において、平成２２年度から３ダムが連携して「銅山川ダム群弾力的管理試験」に着手し、「社会実験」を行いながら、河川環境を改善するために、影井堰から下流に放流する試験を実施することにしました。

ダムの弾力的管理とは、ダムの洪水調節に支障を及ぼさない範囲で、洪水調節容量の一部に一時的に貯留した水をダムの下流に適切に放流することにより、河川環境の改善を図ることを目的に行うものです。

この「社会実験」により、地元住民の方々等にも現地（影井堰から下流）で状況をご確認いただき、そのご意見等を踏まえて、影井堰から下流への放流方法を定めていきたいと考えています。

平成２２年３月２５日

国土交通省　吉野川ダム統合管理事務所
水資源機構　池　田　総　合　管　理　所

【問い合わせ先】

国土交通省　吉野川ダム統合管理事務所
TEL　０８８３－７２－３０００
管 理 課 長　　中山　正一　（内線３３１）

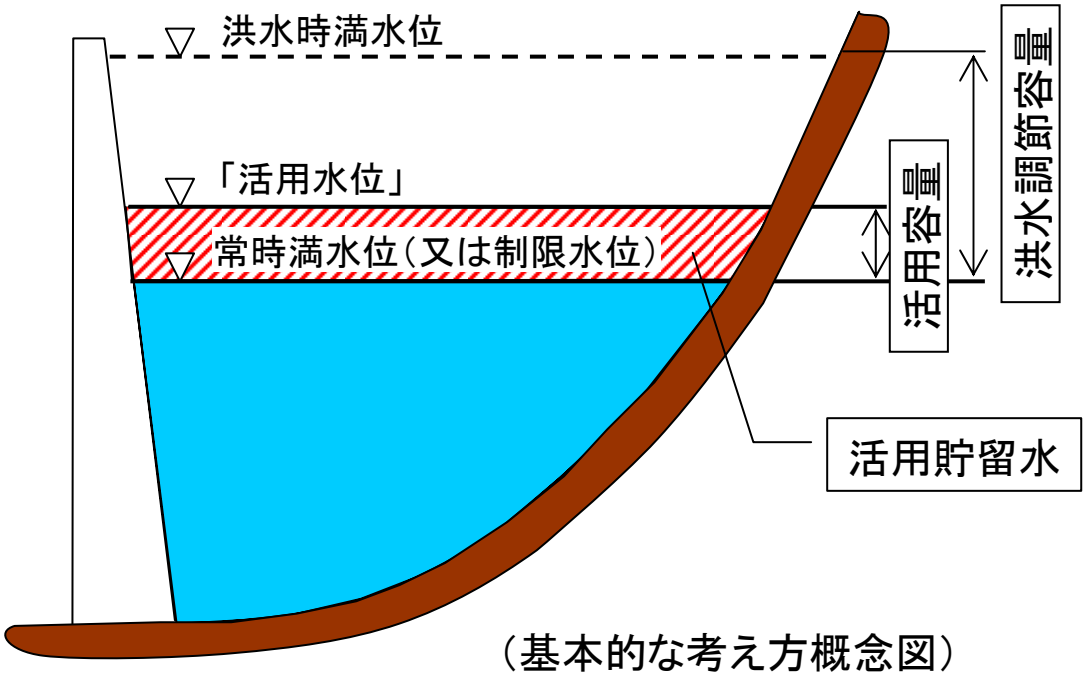
水資源機構　池田総合管理所
TEL　０８８３－７２－２０５０
第一管理課長　成冨　秀樹　（内線３３１）

参 考 資 料

1）ダムの弾力的管理試験とは

ダムの弾力的管理とは、洪水調節に支障を及ぼさない範囲で、洪水調節容量の一部に流水を貯留（活用貯留水）し、これを適切に放流することによりダム下流の河川環境の整備と保全等に資することを目的に行うものです。 なお、特定の利水のための実施については認められていません。

四国では大渡ダム（高知県）に次いで2番目に実施するものです。



（基本的な考え方概念図）

【参考】

・洪水調節容量とは、ダムの洪水調節のために使用する容量のことで、平常時は使用しない容量です。

・洪水時満水位とは、洪水時に一時的に貯留することとしている流水の最高水位のことです。

・常時満水位とは、平常時にダムに貯留することとしている流水の最高水位のことです。

・活用貯留水とは、ダムの弾力的管理にて確保する流水のことです。

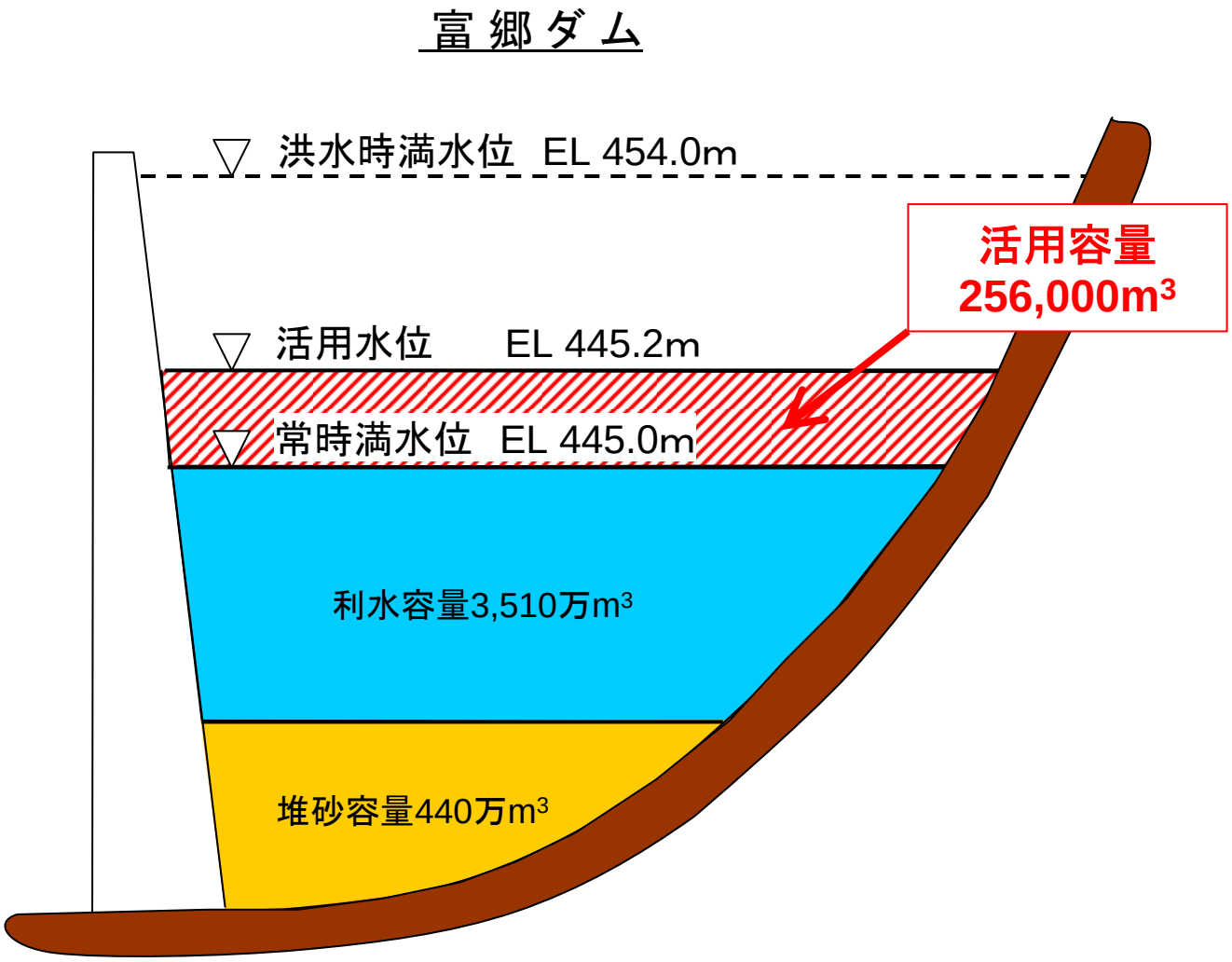
・活用容量とは、ダムの弾力的管理にて活用貯留水を確保する容量のことで、洪水調節容量の一部を使用します。

・活用水位とは、ダムの弾力的管理にて活用する流水の最高水位のことです。

2）銅山川ダム群弾力的管理試験の活用容量について

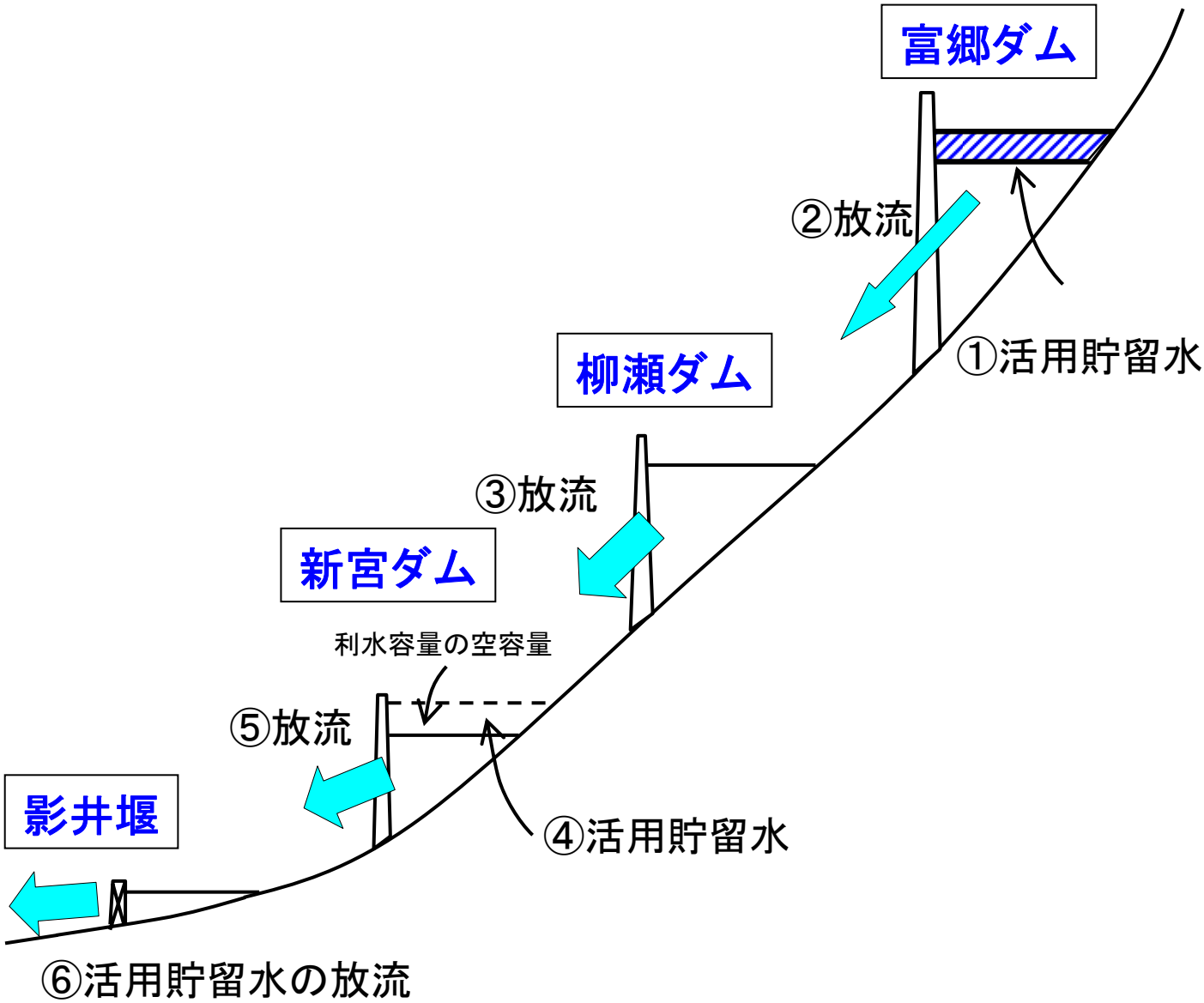
銅山川ダム群における弾力的管理試験では、富郷ダムに活用貯留水を確保することとします。

ダムの洪水調節操作等に支障とならない容量を検討した結果、その活用容量は256，000m3としました。



3）弾力的管理試験のダム連携運用について

①洪水直後に、富郷ダムに流水を貯留し、活用貯留水を確保します。
②活用貯留水を確保した後、新宮ダムの利水容量に空容量が生じた時点で、速やかに富郷ダムから活用貯留水を放流することにより、下流へ移動させます。
③柳瀬ダムでは活用貯留水をスルーして放流し、下流へ移動させます。
④新宮ダムの空容量に、活用貯留水を貯留します。
⑤影井堰の運用を見ながら、新宮ダムから活用貯留水を放流します。
⑥活用貯留水を影井堰から下流へ放流し、下流の河川環境を改善します。



4)「社会実験」の進め方について

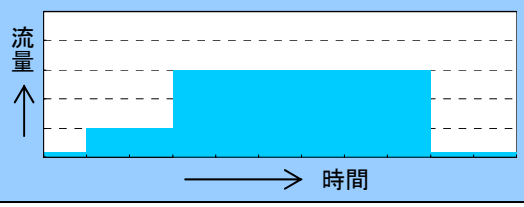
銅山川ダム群においての弾力的管理の試験は、「社会実験」を行いながら、河川環境を改善するために、影井堰から下流に放流する試験を実施することとしました。

その概要は以下のとおりです。

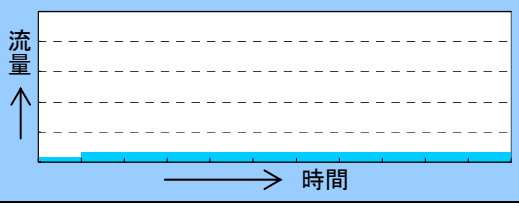
①地元住民の方々等の意見等を聞きながら、試験で実施する放流計画を決定します。

放流計画（パターン）の一例

1）フラッシュ放流の例
・多くの量を短時間放流する



2）フラット放流の例
・少ない量を長時間放流する



②弾力的管理試験（社会実験）の開始

・現地の試験状況を、地元住民の方々等に見ていただきます。
・現地で調査観測を実施します。

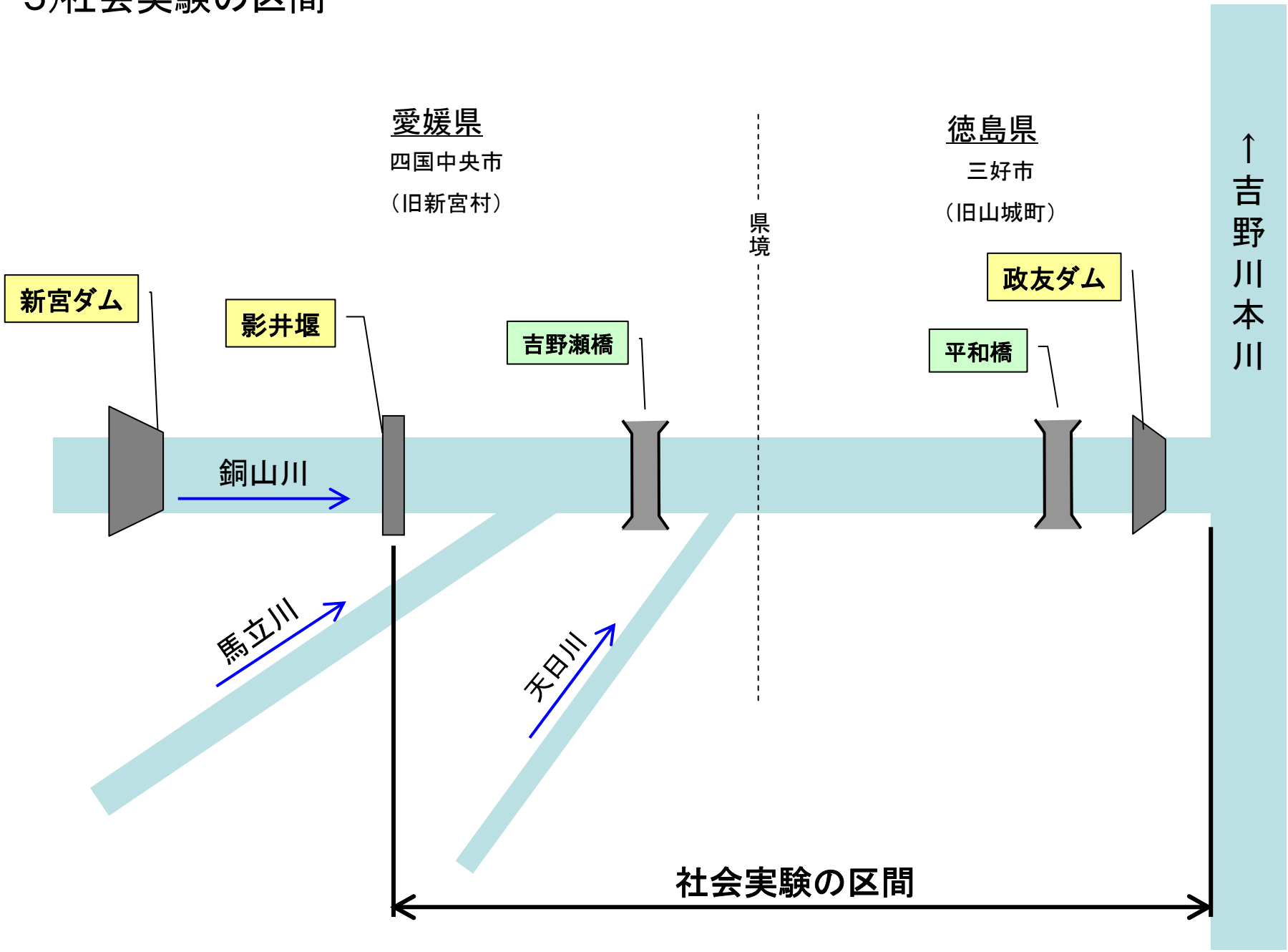
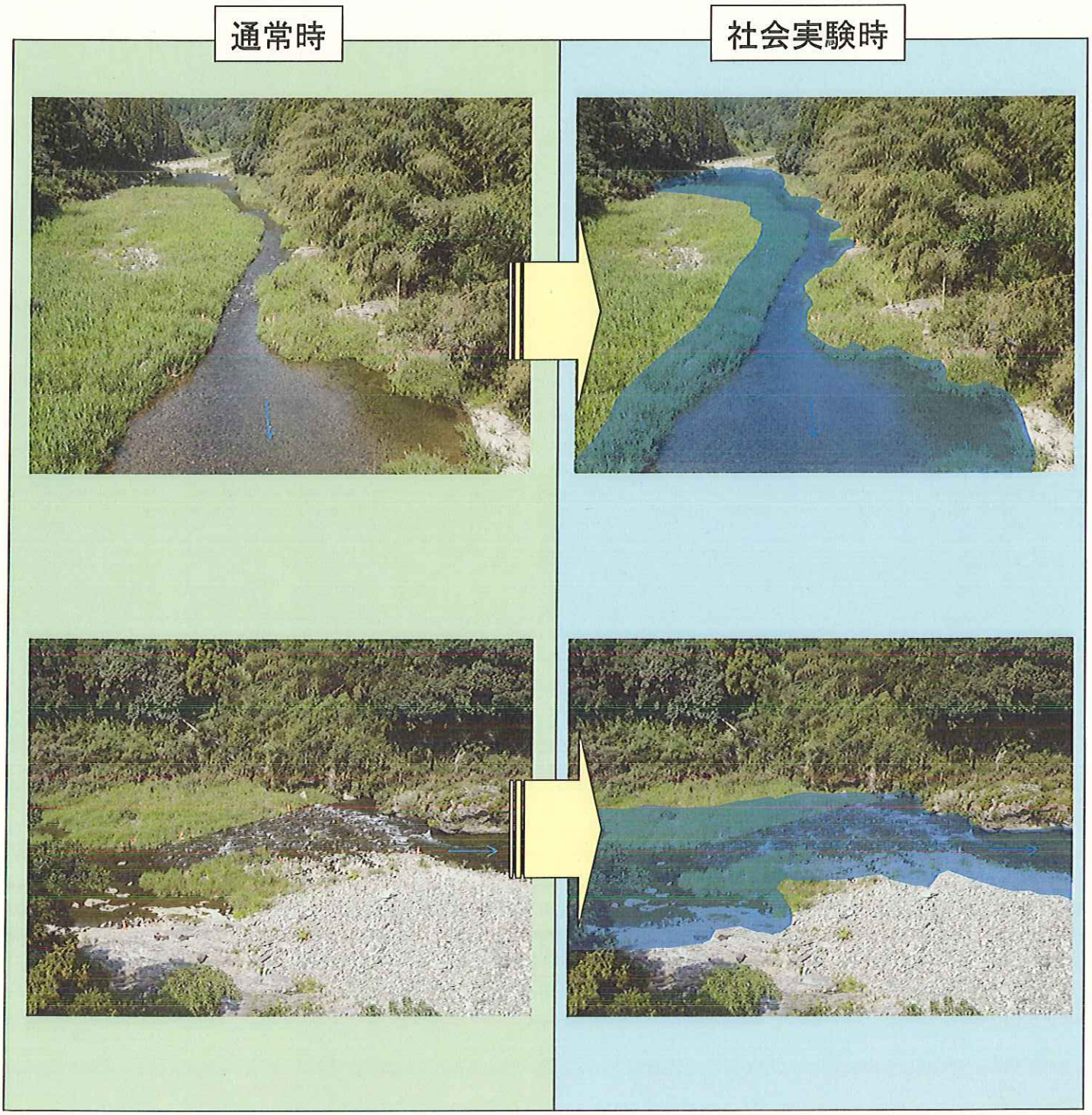
③弾力的管理試験（社会実験）の継続

・試験の結果を踏まえて、地元住民の方々等の意見を聞きながら、様々なパターンの試験を継続して実施します。
（3カ年程度を予定）

④試験全体の結果を総括し、効果等を総合的に評価・検証します。

⑤銅山川ダム群弾力的管理の放流方法を決定

5)社会実験の区間


愛媛県
四国中央市
（旧新宮村）
県境
徳島県
三好市
（旧山城町）
↑吉野川本川
新宮ダム
影井堰
吉野瀬橋
平和橋
政友ダム
銅山川
馬立川
天日川
社会実験の区間

6）弾力的管理試験イメージ写真